研究主題「学習意欲を高め、自己の生き方を主体的に考えることができる道徳科の指導－振り返り活動の工夫を通して－」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
江戸川区立南小岩小学校　主幹教諭　根本　義久

第１　研究のねらい

小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編（平成 29 年７月）（以下、「解説編」と表記。）には、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが目標として示されている。このことから、「自己の生き方について考えを深める学習」を充実させる必要があり、「本時で学ぶ道徳的価値と自分自身とを照らし合わせて考える振り返り活動」を行うことが重要であると考える。

振り返り活動は、解説編において工夫する必要性が示されており、これまでも様々な研究と実践がなされてきた。一方、平成 30 年度教育研究員の調査では、道徳科の学習が「楽しい」、「どちらかというと楽しい」と回答した高学年児童の理由のうち、「自分の生活を振り返ること」と回答した割合は、他の項目と比べ数値が低いことやその理由を「自分のことを考えようとする意識や意欲が低いのではないか。」と示している。この原因として、「振り返りたいが何を考えたらよいのか分からない。」や「振り返る内容は分かるが、振り返りにくい。」などの理由があると思われる。これらのことから、自分の考えをもちやすい等、振り返り活動の内容や方法等、振り返り活動における指導の工夫が必要であると考え、本研究主題を設定した。

第２　研究仮説

教師が一人一人の思考の流れに着目した振り返り活動を目指し、振り返る視点を自由に選択できる指導過程を工夫すれば、児童は自己の生き方を主体的に考えることができるようになるだろう。

第３　研究の内容と方法

１　基礎研究

解説編から道徳科において振り返り活動を行う意義を明らかにした。また、文献や先行研究から、道徳科における振り返り活動は、「どんなことを考えましたか。」や「本当の友情は何だと思いますか。」等の問いに対する記述となり、教材を通して学んだことと振り返る内容がつながらない場合があることが分かった。そのため、児童にとって考えやすい、具体的な問いに対する振り返りを設定することが有効ではないかと考え、文献や先行研究を調査した。解説編には、時間を表す言葉が使われていることが分かった。このことから、振り返り活動においては、過去、今、未来という時間の流れに着目し、学習内容と自分を照らし合わせて、丁寧に振り返ることが有効なのではないかと考えた。また、平成 23 年度東京都教員研究生の研究を基に、時間の流れに着目した振り返り活動の課題を把握した。そこで、解説編を参考に経験の想起、課題の発見、目標の発見を振り返る視点と設定し、検証することにした。

２　調査研究

振り返り活動に必要な要素の考察などを目的として、都内公立小学校２校の第５学年・第６学年児童 221 名と教員 27 名を対象に意識調査を実施した。

調査から、振り返り活動で友達の振り返りを聞くことや知ることのよさを実感している児童の割合は、学年が上がると低下することが分かった。また、「児童は振り返ることが苦手」と感じている教員が約８割いることや振り返り活動の改善のための手だてとして「友達の考えを聞く、知ることが必要」と考える教員が約６割いることが分かった。このことから、一人一人の児童に自分の考えをもたせる手だてが必要になるのではないかと考えた。

３　開発研究

(1) 学習指導過程の工夫

振り返り活動において考えをもたせ、丁寧に振り返り活動ができるように学習指導過程の工夫をした（**表１**）。具体的には時間配分の工夫である。また、振り返り活動は教材を活用し、自分事として捉えた上で行うことが大切だと考える。「振り返り活動だけすればよい。」といった誤解を与えないように学習指導過程を工夫し、教材活用と振り返り活動の充実の両立を目指した。

表１　学習指導過程の工夫

導入	１　主題名を知り、学習の見通しをもつ。
展開	２　教材を読み、話し合う。 ３　主題を自己との関わりから見つめる。 ４　考えたことを交流し、自己をより深く見つめる。
終末	５　教師の説話などを聞き、自己評価や学習感想を記入する。

展開３及び４は、研究副主題「振り返り活動の工夫」の中心である。そのため、展開２において発問の精選や掲示物を活用し、板書を工夫するなどして、振り返る時間を十分確保できるようにした。

(2) 指導の工夫

ア　思考を整理する場の設定

指導の工夫として２点開発した。１点目は、振り返る視点の中から、自分の思考に合ったものを選べるようにしたことである。自分が振り返りたいことは何か、思考を整理する場を設定することで、一人一人が考えをもち、自己の生き方を主体的に考えることができると捉えた。振り返る視点を決定した後は、どの視点から振り返るか意思を伝えるために「時をかけるカード（tokica)」を開発した。このようにすることで、その後の交流活動への意欲付けや教員が学習状況を把握することができるのではないかと考えた（**図１**）、（**図２**）。

過　去	今	未　来
経験の想起	課題の発見	目標の発見

振り返る視点を考え、決める

・自分が関わりやすい視点を選べることで、考えをもちやすくなる。
・選んだ視点を互いに確認し合い、友達の思考を知ることで交流活動への意欲が高まる。

図１　視点を選ぶ効果

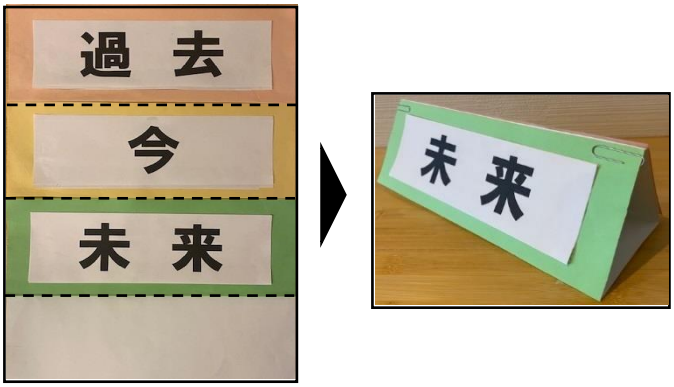


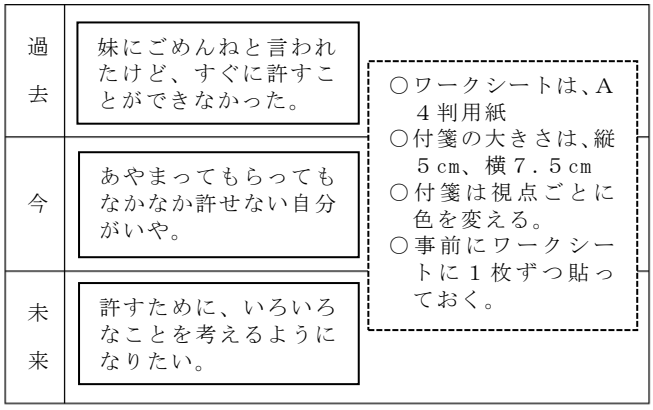
図２　tokica を開いたもの（左）と組み立てたもの

イ　付箋を貼るワークシートの活用

２点目は、視点ごとに付箋の色を決め、自分の考えを書き、ワークシートに貼ることができるようにしたことである。付箋を活用する理由は、自由に動かせることや書くことが苦手と感じている児童も小さな紙には書き出すことができると考えたからである。一枚の付箋を

書き終えた後は、関連させて他の視点から振り返っても、同じ視点に絞って振り返ってもよいこととした。また、付箋を貼り付けた後は、ペアやグループ、学級全体などで考えを交流する時間を設け、新たな考えに気付いたり、価値について一層深く見つめたりすることができるようにした（**図３**）。

児童Ａ（視点を関連させた例）



児童Ｂ（視点を絞った例）

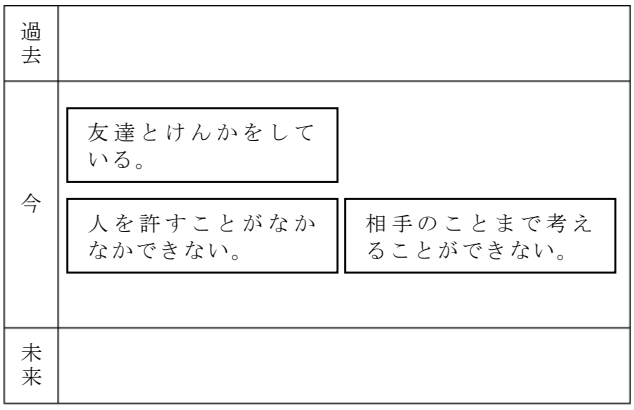


図３　付箋を貼るワークシートの活用例

４　検証授業

検証授業は、都内公立小学校の第６学年１学級 34 名を対象として、内容項目が異なる授業を３時間実施した（**表２**）。

表２　検証授業の概要

時・教材	第１時　ブランコ乗りとピエロ	第２時　お客様	第３時　小川　笙船
主題名	人を許すということ	「お客様」という立場	命の大切さ
内容項目	Ｂ　寛容	Ｃ　規則の尊重	Ｄ　生命の尊さ
振り返り活動で児童が選ぶ各視点の内容			
経験の想起（過去）	似たような経験がある	「わたし」と同じような経験があった	「命の大切さ」について考えた経験があった
課題の発見（今）	課題があると感じている	「お客様」という立場について考えがある	「命の大切さ」について考えたいことがある
目標の発見（未来）	自分なりに目標を立てたい	「お客様」という立場になった時の自分について考えたい	「命の大切さ」について目標を立てたいことがある
検証の方法	児童のワークシートに取り組む様子や記述内容から分析する。		

(1)　「学習意欲を高める」指導の手だての有効性について

約９割の児童が道徳科の学習に対して肯定的な回答をした（**表３左**）。自己評価には、「どの視点から考えるかというのが分かりやすかった。」などの記述が見られた。

(2)　「自己の生き方を主体的に考える」指導の手だての有効性について

振り返り活動についても約９割の児童が肯定的な回答をした（**表３右**）。自己評価には、「今までどんなことがあって、今どうしたいのか、未来はどんな目標にしたいのか深く考えられたと思った。」などの記述が見られた。

表３　授業後の振り返り

	学習意欲を高める		自己の生き方を主体的に考える	
時	第１時・第２時	第３時	第１時・第２時	第３時
設問	進んで学習に取り組むことができたか。	３時間の学習を終えて、道徳科の学習をやってよかった、楽しいと感じたか。	学習テーマと自分についてよく考えることができたか。	３時間の学習を終えて、過去、今、未来の視点で自分のことを振り返ったこと
回答	「できた」または「よくできた」		「よかった」または「とてもよかった」	
人数	34 名中 31 名	34 名中 33 名	34 名中 31 名	34 名中 32 名

また、検証授業を重ねるに従って、価値と自分を照らし合わせ、自己を深く見つめられるよ

うになっていった。児童Ａは、「命の大切さ」について、まず「時をかけるカード(tokica)」で振り返る視点を決め、過去の付箋を記入した。その後、よく考えながら未来の付箋を記入していた。この様子から、振り返り活動において過去を想起するだけでなく、未来についても考えることができたことで、自己の考えを深め、これからの生き方を考えることができたのではないかと考えた（**表４**　下線参照）。

表４　児童Ａの記述内容（第３時　Ｄ　生命の尊さ　「小川　笙船」）

経験の想起（過去）	前に、ひいおばあちゃんと会っていた。元気で、たくさん話して最初は楽しかった。でも、だんだん元気がなくなっていく姿を見て、もうすぐいなくなっちゃうのかと思う時があった。だから、その後からずっと笑顔で声をかけるようにした。
課題の発見（今）	
目標の発見（未来）	命は一つしかないし、他の何かに変えることができないとても大切なもの。一人一つの命があって、みんな大事にしている。だから自分だけではなく、周りの人が苦しんでいたらすぐに声をかけ、自分ができることをしてあげたい。たとえ、救える可能性が１％だとしても、その可能性を救えるようにしたい。

児童Ｂは、第１時は過去、第２時は過去と未来、第３時は全ての視点から自己を見つめ、考えを記述している。第２時及び第３時では、具体的に理由を記述しており、自己の生き方を主体的に考えることができたのではないかと捉えた（**表５**）。

表５　児童Ｂの記述内容（第１時から第３時まで）

	第１時　Ｂ　寛容 「ブランコ乗りとピエロ」	第２時　Ｃ　規則の尊重 「お客様」	第３時　Ｄ　生命の尊さ 「小川笙船」
経験の想起（過去）	サムのように人のことをせめてしまったのでもっとちゃんとした人になりたいと思ったことがあった。	自分の中でもこのような似た経験があって、それが今、忘れられない出来事だなと思った。理由は、注意することが出来なかったからということと、自分も同じことをやっていたから。	私のおじいちゃんが亡くなった時、「命は一つしかないんだ」って思ったことがあった。
課題の発見（今）			自分の家族がいつまでも元気かどうかわからないので、命を大切にしたい。
目標の発見（未来）		次からは、近くで危ないことや注意されるようなことがあったらしっかり注意できるようになりたい。受け止めることなど。	自分ばかりを責めないで、やりたいことは今のうちにやっておきたい。理由は、大人になったら出来ることが少なくなるから。

その他にも、書き出した内容が自己の課題の認識や成長の発見、自己分析や生き方の目標設定など、個々で自己を深く見つめる姿が見られた。当該学級を担任する教員は、３時間の検証授業を終えて、「一人一人がじっくりと自分のことを振り返ることができていた。」と話していた。また、「検証授業で考えたことをその後の生活に生かしている児童がいた。」とのことだった。「自分に合った振り返る視点を選択し、学習内容を自分事として捉えたこと」や「過去、今、未来という時間の流れに着目し、丁寧に自己を見つめ、振り返ったこと」がきっかけとなり、心に残る振り返りができ、自己の生き方を主体的に考えることができたのではないかと考えた。

第４　研究の成果

・　振り返り活動において、自己を振り返る時の視点として、時の流れに着目することで、一人一人の実態や思考の流れに合う振り返り活動を行うことができた。
・　振り返る視点を自由に選択できるようにすることで、学習意欲を高め、自己の生き方を主体的に考えることができた。

第５　今後の課題

・　交流活動を通して自己の生き方をより一層深く考えることができるようにする。
・　時間の流れに着目した振り返り活動を、他学年で実施することができるようにする。